

税についての作文

神崎中3年 加藤 愛理 さん

全国納税貯蓄組合連合会 会長賞 受賞

国税庁と全国納税貯蓄組合連合会が主催する「税についての作文」で、神崎中学校3年の加藤愛理さんが佐原税務署管内納税貯蓄組合連合会会長賞を受賞し上申され、全国納税貯蓄組合連合会会長賞を受賞しました。

なお、石井風音さんが神崎町長賞、田島樹さんが香取地区教育委員会連絡協議会会長賞を受賞しました。

また、佐原間税会主催の「税の標語」では、ルワンプラセナハスさんが優秀賞、奥山優人さんと甲島葵都さんが佳作を受賞しました。

全国納税貯蓄組合連合会会長賞を受賞しました加藤愛理さんの作文を紹介します。

税金が作る優しい世界

皆さんにとって税金はどのようなものですか？私にとって税金は理不尽をなくすためのものだと思います。私は小学三年の時に大きな病気になり車椅子生活になりました。いわゆる障害者になったのです。障害者が生活するのにはたくさんのお金が必要でした。病気の治療費は勿論のこと病気が治った後も全て容態が元通りというわけではありません。医療物品がたくさん必要です。それを国が十七万円も負担してくれるのです。私の生活も税金で成り立っています。例えば、お風呂介助や体調管理をしてくれる訪問看護師さん、私の筋力低下予防のために来てくれる訪問リハビリや、私の世話で母が外出できない為母の代わりに買い物に行ってくれるヘルパーさ

んの費用。そして町が災害時には電源がないと生命に関わるということや心配してくれてモバイルバッテリーを買ってくれました。またモバイルバッテリーの補助も認めてくれました。それを聞いて本当に税金の有り難みを知りました。そして、税金を納めている人達に感謝しました。私はみんなの税金で生きているのです。病気になって治療している時は自分の事が大変でお金のことを気にする余裕がありませんでしたが、母に聞くと、集中治療室に一ヶ月入っている時の入院代が約四百万円かかっていました。子供医療受給券を利用すると三、四千万ですんだと聞いています。その事を聞いて私は税金は必要な人・設備に適切に届く優しい制度だと感激しました。何の不自由もない日常生活を営んでいる私達の裏側で、税金が国民の意見に寄り添い、色々な観点から人々の生活が支えられているという現状があるのです。私達家族が不安を抱えず楽しく暮らしているのは、税金が人それぞれの需要に合った適切な支援をできるような形を変え、その人の生活を支えているのだと実感出来たからだ

と思っています。そして、この優しいお金は労働者の納税という不断の努力によつて納められています。そのおかげで現在まで理不尽によつて経済的に苦しくなることはありません。小さいざこざがあれど、みんな生きられる社会を実現しています。税金がどのような形で社会貢献しているかが見えてくると、未来を支える私達の納税の意識がより良い方向に変わっていくでしょう。その思いの先にあるものはいつも誰かが誰かを支え合っている未来の為に一緒に頑張る道なのでしょう。そして、この素晴らしい優しい制度をつないで、これからも一人一人に生きやすい社会が続くことを祈っています。

私は、今の自分にできることは何か考えてみました。それは今、自分が置かれている状況で頑張るということでした。受験勉強を頑張つて将来きちんと税金を納め社会を支える一人になれるよう頑張ろうと思います。子供の未来を支える税金のあり方や必要性を知ることとみんなの税金への意識が変わればいいなと思います。